

故丹波先生御葬儀

あり、將來吾々先生の墓地を訪れ之を見るとき又感慨無量であらう。

『十五日に納骨式が行はれた神谷先生初め各級委員參加した』

(庶務部)

帝大藥學教室にて
可兒重三

掛、黑板の大小と高さまで、學校衛生や教授、管理、訓練の方面より考へて設備する必要がある。尙講義室、實習室のみならず、大講堂、校長室、職員室、生徒監室、事務室、應接室、宿直室、圖書室、器械標本室、生徒控室及食堂、小使室、倉庫、暖房裝置、便所、運動設備等に就ても考慮する必要がある。一體に學校教育に携はる者には教育學、倫理學、社會學、心理學、論理學、生理學、學制等の一般が必要である。學校經營の爲め

には、職員全部でなくとも職員の中に此の方面を知つて居らるゝ方のある事が必要である。

すには、單に一庭築家に委ねるべきものではない。成る程建築専門の技術方面の事はそれで宜しいでせうが、教育上より目

たる建築設備はよるしく在校の
教授諸先生の意見を徴され、尙
他の同種の學校に視察員を出
て、他の長を取り我の短を補
様にすることも望ましき事であ
る。卒業生としての希望をいへ

來る十一月廿七日午後零時半よ

り東藥會定期秋季大會を本校堂
に於て開催し故丹波會頭の追悼
會を營む萬障繰り合せの上御出
席相成り度し尙會費は金一圓と
す大會次第は當日揭示す

みて丹波老校長の御他界

みて丹波老校長の御他界、
事を紙上に借りて諸兄と
悼の意を表す。

東藥會滿洲支部一同

海の珍珠も過ぎては飽か
く支那便りも同じ處のも
では讀む氣にもなるまい
の中心東都を離れた各地
を聞かまほしきとは誰し
所……先づ手初めに滿洲
爲に會員の消息を並べて
やう……然し滿洲宣傳費

ば、學校に東藥會の事務室や、卒業生製品の陳列室や、卒業生研究實習室などを設備して戴きたい。之は學校と卒業生相互の爲めであると思ふ。新築を完全にする爲め、各方面より建築委員を選ばれ、之によつて建築の事を處理されることは、最も策の得たるものと思ふ。各方面此の種の問題に就て見るも皆左様して居らるゝ様である。

私は藥の畑には後輩であるが教育といふ仕事に就てはほんの少しであるが經驗と趣味を持つて居るつもりです、その目からみて遠慮なく愚見を申述べました。而し之は母校を思ふの情からであることを御了承願ひます

在校、出身多くの會員の中には

處からも貰つて居ない事丈は茲に御斷りをして置きます。

渡邊徹(安東滿鐵醫院) 君は第二十九回卒業で滿州に於ける東藥會々員の先輩である温厚な紳士で支部代表者として熱心に盡力された事は人も知るところ、今回鴨綠江節の本場鐵橋一つ隔て、朝鮮と隣する安東の滿鐵醫院に榮轉したが必要や藥學の爲に重きを成すであらう

生蕪喜太郎(長春滿鐵醫院) 長春といへば滿鐵會社鐵道の最北端で東支鐵道、吉林線との連絡要點である寛城子と曰へば一層よくわかるかもしれぬ、此處の滿鐵醫院藥劑長こそ東藥第三十四回卒業の君で渡邊氏と共に温厚篤實其者の如き德望を備へた人だ

小島一雄(大連市若狹町七四) 卒業したら第三十三回であらう在學中檢定試験を済まし衛生試驗所に學び滿鐵醫院營口に永らく在勤した後大連に藥局を開業して數年釣りと柔道は止められないと見え

小松茂(大連山縣通一三三) 田中商事で隨と名前を擧げて今では大連で藥局開業、氏は覺えの醫療器械、化學機具の製作を自から監督し且つ堂坂其他の代理店を務め小身に満ちた才氣で將來を期して活躍しつゝ多忙な身体に拘らず東亞藥會常川支部の爲に熱心なお世話役は常に吾人の感謝するところ、氏の益々堅實な發展を祈る卒業は第三十八回

田中進(大連市浜路町七) 第四十回出身の同氏は大連で菱川大昌藥堂を背負つて店を支配しつゝ大連藥業青年會創立に盡力し今は同會幹事長として熱心に藥業家の青年従事員の指導向上の先道を勧めらるゝは藥界の爲喜ばしき斯の如き務は中々尋常一様の苦勞では出來ないこと

松井島吉(大連山縣通一六四) 第五十二回の卒業生、商賣には苦勞が多いことで氏も亦苦勞の内に光明を以て藥局を開設人をそらさず天與の商才必ずや近き將來の大成を持つこと疑なし

六十回卒業の關本氏の此處に在る
又過然ではない
根本昇(大連壹岐町五五)氏は
舊姓を澤氏と曰ひ東京藥學專門學
校第三回卒業生で氏の圓満なる人
格は根本氏の嚆矢さるゝところと
なり今や根本家に入りて藥局を開
設目々陰盛に向ひつゝあり
大橋清治(大連滿鐵醫院) 根本
氏と同橋にして根本夫人の令妹を
娶りて圓満なる家庭をなし大連
醫院藥局に於て實に温厚篤實品行
方正の若手藥劑師として認められ
てゐる
牧野卓(大連醫院藥局)氏は藥
事第五回卒業で在滿東藥會員中の
最年少者であり殊に君は關東州府
順中學を終へた人で小學校時代を
州内に育ち東藥に遊學せるものと
しては最初の一人であらう、今も
父母の温き膝下より大橋氏と共に
大連醫院に勤務事務に熱必勉勵な
るは先輩諸氏をして感嘆せしめて
る好漢今後の大成を期して修餘
に至らざらん事を老婆心を以て一
言を呈す

前川源士

り、相別れてから一昔の集ひ

倉盛重、武藤重市、植草正虎、
栗原茂、山下達彌、小林繁、五
味己代治、相羽喜三郎、赤田一
郎、齋藤孝治郎、木原四郎、下

澁谷たわらの階上は瀟洒
とルクセードに照されて既に
二三人が卓を圍んで樂しき

田龍夫、廣瀬廣次
定刻相羽氏の開會の辭に續いて
幹事の改選あり高羽、鍋倉、武

を登り来る足音……久濶を叙る喜びの顔『久振りでした』

藤、相羽の四氏が新幹事となる。次に母校建築費に當つべき校債の件を協議す其結果全會一致の下に本會の名義を以て出來ら

宗の耳元に「彼は誰だい」と
面目に聞く健忘家も一人なら
指針七時半を示す唱齋君の

け多く纏めて申込む事に決し爾後支那料理をつゝき乍ら懇談に移り會本來の目的とする相互親

會の辭續いて松君の事務會計
日成蹊會又その人を得たりと
念を深ふす。

睦を完全に遂行し時の到るを覺へざる盛會裡に歡を盡して午後九時散會。

は飛びビールは溢れ同窓二十
君共に食し共に語る愉快さ他
すべくもない。デザートコ

漆原正之君逝く

に入るや先づ自己紹介を以て、
 例の交々立つて近況と趣味及
 言に對する意見を述べ或は社

て研究に努められて居たが本年春より病魔の犯す處となり爾來専ら大久保の自邸にて療養中の處藥石効なく遂に十一月八日午前九時三

論じ藥界を批評し宗教を渾
經濟論に及ぶ等其の博識抱
大に前途の活躍を期待せしめ

十分腹膜炎にて逝去された成瀬侯
秀にして將來有望の君を失つたの
は哀惜の念に堪へず此處に謹んで
君の逝去を悼む次第である

在校部報

野球部々報

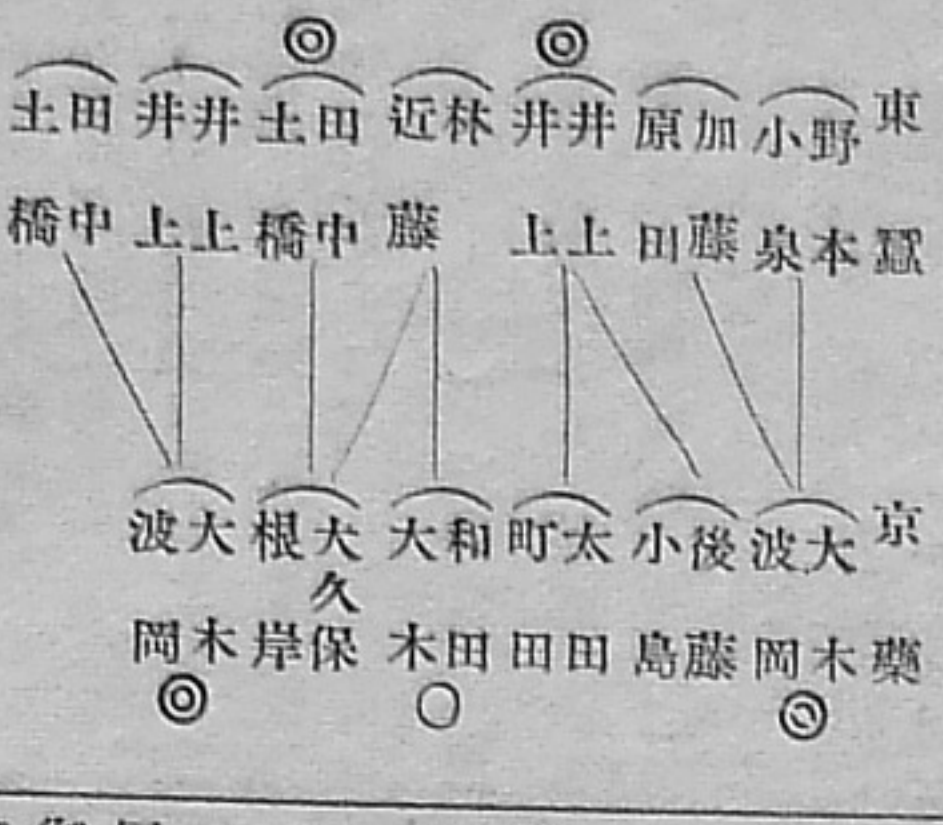
我が部は今年のリグ戦に於て三
年来の宿敵明徳を八対五の成績に
て完全な勝ちを収めた。大に久保組
戦にのぞみ選手一同必勝の勢をひ
で戦いが未だ時期早すぎず勝を日
にゆづいたのはかへす。も残念
であつた。

我が部の顔振は左の如くであつた
四六七三二一五九八
氏・野 塚 田 澤 島 木 川 岡
氏・濱 塚 松 川 鈴 早 吉 富
P. C. 1B. 2B. 3B. S.S. L.F. C.F. R.F.

今秋は勝を目前にゆづいたが春に
は三對二のスコアで我軍は勝つた
のである。故に來年の春は東
對日の商決勝戦とも云ふ時である
から部員一同は各自練習に余念が
ない。そして月桂冠を我手に得て
東薬野球部の一ページをかきう
と決心している。終りに應援團の
諸君にお禮申します。

庭球部記事

V.O.O.M.R.N 生
拾月拾六日午前中は雨が降つて居
たが午後より止んだので我部は東
薬と對校試合を行なつた。



當日金、山路、寶田君の出場出来
なかつた事は非常な打撃であつた
大木の「アタリ」三番を、先ず敵
トツを以て撃退せしめて我軍
を有利に導いてくれた。然し次
の藤組は非常な元氣で戦つた
がにはか造りの組としてチーム
ワークを取れず敵をして名をな
してしまつた。次の太田組も二人共
スランプに落ちていて少しも「ア
タリ」に達して弱敵にして退
めてしまつた。當日前衛不足な
し爲め我軍は再び大木を出場せし
めた。當日和太田相當よき「アタリ」
を見せ且つ大木の活躍によりて敵
の四番を「アタリ」三番を以て退
けた。

だけ、次に敵の大將組に對し善戦
したが遂に「四」三番を以て敗
れてしまつた。大に久保組出
て和太田組の敵に大に久保組出
て久保組不足に根柢大いに之を
助けたが遂に及ばず「四」三番
を以て敗退す。此處に於て大木
望を以て出陣し、敵の井上組
と對す大木盛にプレーシングで敵を
せめて波岡又プレーシングにスト
シングにポイントをきめて「四」
一の簡単なスコアを以て
敗退せしめ、いよいよ敵の大將組
と對す。此時大分暗く球を見る事
が困難となる。然し東薬は春の復
讐をせんと試合を主張せしかば我
軍之に應じて戦ひ先づ一ゲームを
先取し次に敵が一ゲームを取り
一ムカウシト一となつた。
此時球を見事全く困難となりし爲
め後日を記して「ドロンゲーム」
引分けとした。

拾月貳拾九日、都下大學専門學校
聯盟會主催のリグ戦に我部は
大木、波岡、太田、町田、和太、
寶田を出場せしめ東都の雄東薬と
戦ひ三—〇を以て敗れてしまつ
た。

競技部々報

今やスポーツのシーズンも終ら
うとしてゐる。全国的な明治神宮
技大會も若干の收穫を後して済
んだ。關東醫藥聯盟戦も済んだ。
我が部は來年五月中旬に催される
全國醫藥聯盟戦及び關東醫藥聯
盟戦に備へる爲め來週より除々に
練習を漸く川の新成トラックに開
始する。そして今年振はなかつた
トラック競技に萬全を期する必算
である。來年こそは東薬の手にあ
る華やかな優勝旗を握りたいと思
ふ。同好の諸兄には御練習あらん事を
御願ひする。参考の爲めに關東醫
藥聯盟の最高記録を此處に掲ぐ。

四百米五秒九
五百米四秒二七秒二
一千五百米四分二七秒二
五千五百米四分二七秒二
一キロメートル二八秒八
走高跳一米七〇
走高跳一米七〇
棒高跳三米〇二
ホ・ス・ジャンプ一・二米八二
槍投四九米四〇五
砲丸投一米八八
圓盤投三米九六
第三回の大會には選手のコンドイ
ションが感く惜しくも敗れた。僅

か十五人の選手を以て二十八人
二十五人の他校選手と戦はねば
ならない我が部は僅かにコンディ
ションを悪くする。我が部も早く一
人一種目出場にしたいものだ。同
好の諸兄は委員まで申込んで下さ
い。我が部の爲めに練習を積み身
体を鍛練してあの優勝旗を握らう
ではないか。(名畑目)

柔道部々報

忍苦一年、遂に決戦の日は來た
連戦に健闘を續けること正に四ヶ
年、拾一月五秋色いまだ去らず
菊花のほゝろみに送られて時雨そ
ほ降る美談の校門をくぐる選手
名、美談何程のことやある。眉宇
に怨氣のほゝろみはあれ、この日
日頃健實な戦闘振りを以て頼まれ
る福井選手と元氣旺盛な清水、山
本選手の家事の都合に依り参加
出来なかつたことはいささかな
なかつた。我等の元氣を削いだに相
違ひなかつた。

午後二時大江師範審判のもとに試
合は開始された。四段佐々木先生
の列席は層一層我等に元氣をそそ
げ、選手を待つ。二時二點
我が部の先取するや應援諸兄の眼は
感激に燃え歡呼の聲校場内に満ち
る。小島居、皆藤、八色、阿部、
鈴木、藤崎君等のめざましい活躍
に依り七對四の好成績を以て決戦
は遂に我が部の優勝に期した。こ
れは選手相對すること均六名、
美校方の都合に依り試合に参加し
得なかつた我部選手四名の方に對
してお詫言する。最後に佐々木先
生並に感謝の意を表す。

兄弟に深く感謝の意を表す。
猶醫藥聯盟柔道聯盟リグ戦は本月
廿日午前八時より戸山學校道場
に於て開催と決定す。期振の志を胸
深く秘めた選手九名、遠藤監督統
率のもとに末廣町の宮本道場に毎
夜相寄りて練習を續けること二週
餘、茲に技術全くなり、意氣總合
今では唯その日の來ることを待つ
のみ、大江先生毎夜我等の指導に餘
念なく、島野先生また我が部の爲
め盡力下さること一切ならず。

リグ戦メンバーは次の如く定む
大將 黒田義雄、菊地輝吉、福井
一正
中堅 加藤勝太郎、山本千春、黒
川 川
先鋒 小島居寛
補缺 清水喜一、岡野藤市
本月廿六日には本校秋季柔道大會
を催す。外來選手も多きこと、期
待す。幸ひに校友諸兄の参加並び
に多大なる應援あらんことを。

過さし十一月三日明治神宮の佳節に
於ける明治神宮大學専門學校剣道
大會に山崎一選手を派遣せり。
同選手は東京商校の猛者を一戰し
大いに満場を驚かせた。

皇道義會道場の全國剣道大會にて
は長谷川選手は水戸商校選手と戦
ひ接戦の後惜しくも引分となる。
去る十二月四日明治神宮大學に高
野、遠藤の兩選手を派遣し共に
明徳選手に優勝し大いに意氣を揚
げた。

又十四日校内剣道大會には本部外
の諸兄が奮つて御出場下さり又熱
誠なる御援助に預りたる事は實に
感謝に絶へぬ次第で紙上より厚く
御禮申上ます。殊に部長伊藤先生
には御多忙の折始終始終御指導下
され誠に恐懼の極みであります。

當日優勝者左の如し
幸、池野、田口(英)、岩下、菊
池、野々宮、田井、後藤、山口
西川、宮崎、福田
尚近日中には劉乙協會中學の剣道
大會に山下、安達兩選手を派遣す
事に決定せり。明治神宮と對校試
合も決行する事となつた。宜しく
部員一同の振舞ひと諸兄の御熱援
を御願ひします。

馬術部々報

十一月二日明治神宮競技大會射撃
大會に左の選手を派遣す。
遠藤雄雄、遠藤孝一、栗山恵吉
高野清作、田口英雄
個人入賞者無かりしも本校は總點
一三三點を得、六學專門學校三十
三校中第八位の好成績を得たり。
尚我部射撃班は盛なる練習を行ひ回
一回と良射手出で来る十一月二十
八日に行はるる明治大學主催射撃
大會には十五名の選手を出場しめ
優賞の自信を得たり。

辯論部々報

(第一回全國醫藥聯盟大會記)
十一月八日十二時五十分より東京
藥專、明治藥專主催の下に全國藥
專聯盟第一回大會は故丹波校
長追悼會を兼ねて上野自治會館に
於て花々しく舉行された。先ず時
間の都合上明治藥專神谷君の開會
の辭に初まり、こゝに雄辯大會の
幕は切つて落された。以下出場辯
士の順位を書す。
藥學花咲 東京藥專 岩下淳四郎君
藥學徒の叫び 明治藥專 森島 利郎君
小論を放棄して醫藥分業に邁進
せよ 東京藥專 織田 善作君
醫藥國營論 明治藥專 坂本 勳君
かくて都合上一時大會を中止し直
ちに故丹波校長の追悼會に引きう
つた。東薬細谷金太郎君の開會
の辭に初まり、池口校長の代讀と
して増田先生の弔辭あり、續いて
全國藥專聯盟代表として東薬齊藤
新二君の弔辭あり、池口信男君の
開會の辭にて追悼會を終へ、この

獨逸メルク社嚴撰

生藥標本 二七七種

硝子筒入セルロイド蓋付
大型 高サ 十吋 徑三吋四分ノ一……一〇五種
中型 同 七吋 同二吋二分ノ一……七八種
小型 同 五吋 同二吋二分ノ一……九四種

特價 四百圓也

新鮮にして個有の香氣及色相を保存す
標本とし將又含有性分研究用として適
切なり

化學問屋 小島義忠商店
電話日本橋(24) 一七五五番
一七五七番

○現品弊店に陳列してありますから御覽下さい
○品種明細書入用の方は御申越下さい

錠劑は確かて速くて廉い

●當所の錠劑は上野式萬能製錠機に由る獨特の製品なれば光澤
に於て崩解度には於て他の追及し難い。御利用を乞ふ。
●御希望の方には製造の現況を公開す。御利用を乞ふ。
(電話大塚 二二六九番)
東京市外西葛町新田八五(丹羽博士邸裏)

上野錠劑製造所

標商 録登
COMEDOL
NEW MEDICINE
にきび取藥
特ニニキビを治癒する新しき藥
○治つてもアトにならず
○アトも消えてもなおよく
○アトも消えてもなおよく
價 藥 五圓
式 貳圓
本館 東京市小石川區喜多町三丁目
電話 三三三三番 三三三五番 三三五五番

加藤貫々舎

製煉化學分析 一式
本店 下谷區上野花園町十三
出張所 東京藥學專門學校内

粉白ND
DON

本館 東京市小石川區喜多町三丁目
電話 三三三三番 三三三五番 三三五五番

開本校生徒、初め明治藥學一般、
衆議一人として、故丹波先生を悼む
る者なく、さすの自給會館の大
講堂も水を打った如く寂として聲
を吐く者はなかつた後引き續き雄
辯大會を續行した。

○都市衛生と若干の考察
京都藥學 三好字二郎君
○惡魔論的化せる將來藥劑師の發
展 東京藥學 野々宮文四郎君
講演

帝國大學 慶松勝左衛門氏
英國の宰相ボールドウィン氏か
デンバ大学の名譽總長に任ぜら
れた時の演説の一説を引用し、業
務に忠實であつたといふ、更に辯
論の主旨目的に就いて論ぜられ例
にスマイルズ氏を挙げて本聯盟の
進むべき道を指示された。

○現代民衆の衛生保健
明治藥學 井岡 清嗣君
○講演 代議士 清水留三郎氏
人口問題を外國移民と商業發達
に依りて解決すべき事を論じ更に
藥劑師の移民に依りて醫藥分業を
促進すべき事を述べられた。

○主として患者の經濟的性質負擔
より見たる分業論
東藥 峯澤 勇君
○學徒より見たる醫藥分業を論ず
大阪藥學 松本 精君
○挨拶 東藥校友 舟戶 忠助氏
○藥學徒の人口問題の考察
京都藥學 西川 成之君

○安樂への生活の一端として
東京藥學 高士 一夫君
○曝露によりて客觀的總體批判へ
明治藥學 小川辰二郎君
○藥學と民衆 京都 公仁君
○藥學の大家進出と醫藥分業
大阪藥學 門田 政治君
○我々は何故醫藥を唱ふか
京都藥學 和氣 清廣君

○醫藥制度の改革
明治藥學 楠山 榮藏氏
○遊園に立ちて
明治藥學 渡邊 利勇君
○醫藥分業論行か藥學校生履か
明治藥學 松田 秀松氏
○明藥校友 松田 秀松氏

かくて六時半第一回雜辯大會は満
口信男君の閉會の辭に次で全國藥
學聯盟の萬歳を三唱し盛大に
に終つた直ちに上野山下三橋亭に
於て來賓諸氏出場諸士一同晩餐會
を開き歡を盡しお互の親睦を圖り
更に今後聯盟を一層確固たらしむ
るに取るべき道を談じ合ひ十時頃
散會した。

相撲部々報

吾部は多年土俵離に苦しんだが今
度山崎(三年)君の關係により二十
六日間他校も羨む、西口出羽ノ海
部屋に合宿して稽古を行ひました
第一回九月二十五日、十月六日迄
山崎、小島居、川田、黒田、
山崎、鈴木、の六名
第二回十月十六日、十月廿一日迄
第一回の人員に新たに野澤、岡

野を加ふ
簡単に合宿日誌を報告します。
九月二十五日 合宿初日朝稽古を
終り醫藥學上競技の應援に行
く
九月廿六日 朝稽古を休んで登校
午後二時より四時頃迄稽古、夜
中敵軍の襲來に苦む
九月廿七日 五時半より七時迄
朝稽古、午後四時より若櫻園に
稽古を受ける

九月二十八日 ボン、蒸氣に醒
む、五時半。小雨降る。隅田の面美
し、直ちに土俵に下る。七時半
登校午後四時清水、野澤を加へ
て猛練習負傷者多し、雨止み對
岸柳橋の紅燈水面にゆらぐ、九
時就床

九月二十九日 雨、五時半土俵に
下る、温々登校、六時半後の稽
古を終へ菓子喰ひ雑談にふけ
る
九月三十日 寢過す、大急ぎ出校
午後野澤、岡田來る、浴後將棋
盛なり、對岸より麗聲合宿に
聞ゆ、九時半就床

拾月一日 朝稽古終る七時、久し
振りの晴天、田園都市に野球の
應援に向ふ、四時より土俵に下
る
十月二日 日曜日、合宿八日目進
歩著し猛烈に朝稽古をやる、九
時半より陸上競技場に行く、午
後稽古休む

十月三日 黒田ねぼけて土俵へ眞
逆さまに落つ、稽古一時間、
鈴木、黒田七時半に大急ぎ登校
十月四日 合宿十日目、分秒を惜
むで蒲團にもぐり、朝稽古元氣
なし、夕食後久し振りで散歩に
出掛ける九時就寝

十月五日 六時起床今朝は一回元
氣、夜は、将棋する者もな
く九時前床に潜る
十月六日 朝稽古を休む、午後の
稽古を軽くやつて終る、小島居
負傷す、浴後雜談にて時を過す
本日にて合宿を先打切る

第二回目 十六日、三十一日迄
合宿は終了
明治神宮相撲大會に出場
先鋒 鈴木 宗十郎
二將 野澤 清人
中將 山崎 龍雄
副將 山崎 龍二
大將 山崎 龍一
補欠 山崎 龍三
同 山崎 龍四
同 山崎 龍五
同 山崎 龍六
同 山崎 龍七
同 山崎 龍八
同 山崎 龍九
同 山崎 龍十

第一回戦(十月三十日)日本大學
山崎(日大) 鈴木
鈴木得意の打しにて敵の殘せし
を奪ふ、切つて勝つ
萬(日大) 小島居
敵は有名な猛者立上るや小島居
下手に喰ひ下つて敵のあせるを
譯なく東溜りにつき放つて勝つ
第二回戦 早稲田大學
一同善戦するも惜敗に終る
第三回 専修大學

東影會會報

二年委員記

東影會秋季寫眞展覽會を豫告より
延期し十一月十六日の兩日に亘
り植物實習室に於て開催せり、在
校會員の外、先輩、諸先生の出品
あり盛會であつた。出品者は左記
の如し

雨後の海岸	一年	土屋 利雄
人魚の戯	同	同
ニコライ堂	同	同
上野情景	同	同
箱根裏街道	同	同
熊笹	同	同
お人形の戀	同	同
光	同	同
朝塔	同	同
秋風囁く	二年	小田木重義
別府地獄	同	同
お猿の家	同	同
上野所見	同	同
峡谷	同	同
ベンチ	同	同
加賀白山への遠望	同	同
ある校庭	同	同
上高地の夏	同	同
神宮千種競技	同	同
スポーツ	同	同
航空ベエーリエント	同	同
秋晴	同	同
老の頭公園	同	同
芝増上寺山門	同	同
美術館	同	同
習作	同	同
町	同	同
街	同	同
雑題	同	同
秋色	同	同
曲馬場の娘	同	同
深山へ	同	同
夜の土野	同	同
温室の入口	同	同
上野小景	同	同
犬	同	同
殘光	同	同
薄日さす時	同	同
海苔乾す家	同	同
秋の海(二枚)	同	同
風景スケッチ	同	同
樂しかりし嵐山	同	同
朝まだき	同	同

級友小宮君を悼む

(昭 藥 會)

本日故小宮君の四九日を迎へ哀悼
の意を表しつゝ筆を取る、君には
去る九月二十五日樂しき舟遊び中
奇禍に會ひ白玉樓中のひとなれた
君は性快活動厚に君の御姿の拜
道、剣道、辯論總て君の御姿の拜
せざる時なく、將來を嚆矢されて
居た、然るに不幸にも今は既に幽
明界を異にして再び君が音容に接
する能はず、哀惜の念に堪えない
唯々我々一同はこゝに一般校友諸
兄と共に君の靈の安らかならん事
を祈り度い、君よ幸に安眠せられ
よ。(一一・一一・一一)

神奈川縣人會例會報告

十一月十二日(土)午後六時より横
濱は伊勢佐木町の壽々長にて、東
藥神奈川縣人會例會を開く、會
者先輩なる深澤、廣瀬(専七半)
石井、大村、會我(専八半)の諸氏
をはじめとし瀧澤、松林、妻鹿、
鈴木(三年)、大西、桶川、高士、
山本、峯澤(二年)、大岡、三本、
松本、安倍、齊藤(一年)の十九名
にのぼる。日本藥報に寄書するあ
り、應援歌六〇六號歌ふあり「田
螺」踊るあり、又先輩の好意「一
に依りジンゲルの君ドライ酒席に
待するあり、ボーメとゲージ交交
爆破せんばかり、かくて十時散會
十二分に盡して川崎に横須賀に歸
る者、横濱にありて歸路に着く者
一様に東藥と縣人會の萬歳を三唱
し心よりの歡びの中に會を散じぬ

編輯室より

萬物凋落の秋漸し去らんとして居
ります。虫のすだきに物のあわれ
を感じた秋も早や過去の思出とな
りました。東藥會報が生まれてから
既に第四號を發行する時にあたり
校友諸兄の御盡力により僅かなが
らも會報らしくなつて來た事を深
謝致します。本號は故丹波先生御
逝去の後を受け、意外に多くの原
稿が集まり紙面の都合上東藥植物
研究會報と昭藥會報は已むなく次
號に廻す事に致しました。恐しか
ら御容赦を願ひます。巻を追ふ
に従つて内容を充實させて行きた
いと思つて居ります。尚校友諸兄
の層一層の御鞭達を望みます。

歌橋亞鉛華絆創膏

國產の權威

特 徴

- 粘着力強靱
- 耐久力優秀
- 絕對無刺戟

酸化亞鉛二一%含有

東京南品川 歌橋製藥所

徳用 六ヤード入

罐入 長〇・九一M
筒入 幅一・七八Cm

凍傷

治療及豫防劑

チユール

石丸一氏創製

しもやけの療法
(石丸博士述)
冊子無代進呈す

包裝及價格

十瓦入	一箱	三十錢
廿五瓦入	一箱	六十錢
五十瓦入	一箱	一圓十錢
百瓦入	一箱	二圓
五百瓦入	一箱	七圓

發賣元 株式會社 堀野義商店
大阪市道修町
東京・日本橋區大馬場町

鎮咳と 祛痰に

ブロチン

肺結核、氣管枝炎、肺炎、感冒、百日咳並に其他呼吸器
病に基因する咳嗽喀痰ある場合に盛に賞用せらる。

醫學博士吉村喜作先生は
本劑を多數の患者に應用し、其の治
驗を實驗醫報第二第十四號に公表
せらる、其要に曰く……

(1) 本劑は祛痰と同時に鎮咳劑と
して顯著確實なる效力を有す……

(2) 本劑は從來の祛痰劑に比し次
の如き數多の優越せる特長を有
す……

(イ) 本劑は從來の祛痰劑の如
く粘膜を刺激して分泌を促進乃

至増多せしむるが如き不快なる
作用を有せざるのみならず、却
て之を抑制乃至減少し、同時に
粘液を溶解する的作用を有し、
その喀出を容易ならしむ……

(ロ) 本劑は殆ど無味若くは僅微の
苦味を有するものにして、在來
の祛痰劑の如き不快の味を有せ
ざるを以て頗る服用し易し……

(ハ) 從來の祛痰劑に於ける大なる
缺點たりし胃腸障礙、就中食慾
不振、嘔氣、嘔吐等の忌むべき
副作用を有せざるのみならず、

却て食慾を増進する傾あり……

(ニ) 祛痰と同時に鎮咳の作用を有
するは本劑の特長にして、從來
の祛痰劑應用の際の如く、麻痺
劑を併用する必要なく、若し
之ある場合と雖も適に少量にて
足る……

(3) 本劑は以上の諸點の外、何等
忌むべき、若くは、危險なる副
作用を有せざるを以て、使用上
極めて安全にして最も實用的な
り。云々……

(實驗報告摘錄集無代進呈す)

粉末、錠劑、液劑、の三種あり、 各地藥舖にて販賣す

本 社
東京室町

三共株式會社

出張所
大阪・臺北・紐育